

## 令和4年度第2回おおさかプラスチック対策推進プラットフォーム会議 議事概要

日 時：令和5年3月22日（水）15:00～17:00

場 所：咲洲庁舎 41 階会議室大（オンライン併用）

出席者：出席者名簿のとおり

### 1 分科会の取組みについて

○事務局が両分科会の取組状況（資料 1-1）、株式会社ピリカが人工芝調査の結果を説明（資料 1-2）

#### 【主なやり取り】

（宇山教授）マイクロプラスチック（MP）うち河川や下水を流れる人工芝の割合はどの程度か。またどれくらいの大きさのものが流出するのか。

（ピリカ）大阪湾表層では府の調査で 20%前後という結果が出ている。下水についてはわかっていない。人工芝の流出の大きさについては、磯部先生の研究の情報も確認して対策につなげていきたい。

（原田准教授）人工芝の割合は地域によって大きな差がある。都市河川では多く、淀川の河川敷で調査するとかなりたくさん人工芝片が見られる。雨の日には川に流れているのを簡単に確認できる。

（事務局）令和元年度に府が大阪湾で MP 調査を実施した。2 回調査のうち、1 回は大雨後の調査で MP1,237 個中個数ベース 19%の人工芝片が検出された。

（原田准教授）重量比で 23.4%という数字がピリカの調査でも出ている。

（プラ工連）対策効果を見ていくために定点観測をお願いしたい。

（事務局）来年度府内河川で MP 調査を実施する予定。プラットフォームでも結果を共有させていただく。

○三菱ケミカル株式会社が紙コップ堆肥化実証実験（資料 1-3）、全国清涼飲料連合会が新機能リサイクルボックス実証実験の結果を説明（資料 1-4）

#### 【主なやり取り】

（花田教授）発酵には電力を結構使うのか。

（三菱ケミ）基本的に微生物による発酵熱で分解する。一次発酵では攪拌機を動かす電力のみ必要。発酵のきっかけを作るための電熱器はあるがそれほど使わない。

（花田教授）弁当容器も食品残渣が出てくると思うが同じようなシステムで処理が可能か。

（三菱ケミ）京都市では、作業員が弁当ごみを食品残渣と容器に分けているが、それを省力化できるかもしれない。ただし、生分解性の容器だけを回収するのは難しいので、閉鎖的な空間で行う必要がある。

（花田教授）紙コップだけで堆肥にするのは無理なのか。

（三菱ケミ）栄養素の窒素・リン・カリが足りない。この実験の趣旨は、食品残渣に混ぜてしまったものも併せて堆肥化できることを確かめるというもの。あくまでも紙コップ

の分解は補助的なもの。

- (環農水研) 弁当容器の話に関して、食品残渣の加工食品には塩分があり、作物の生育障害の原因になるので気を付けないといけない。
- (三菱ケミ) 生分解性樹脂、加工食品の配合割合がキモと考えている。
- (原田准教授) 紙コップの製造コストが高いようだが、どう考えているか。
- (三菱ケミ) 今回はすべて国内企業で製造するということを目指したため、なかなかコストダウンが図れなかった。実績のある海外メーカーなら比較的安く作れる。紙コップの表面にロゴなどを印刷しなければさらに安くなる。
- (原田准教授) 生分解性プラは需要が少なく生産ロットが少ないため価格が高い。バイオプラ普及のためにバージンのプラスチックに課税するなどの取組も必要。
- (事務局) 商工労働部ではバイオプラのビジネス化支援をやる。課税は最終的に消費者に負担が行くので、府民の皆さんの意見を聞きつつ、今後の議論の中で手段の一つとして勉強していきたい。
- (花田教授) 課税は都道府県レベルではなくせめて関西広域連合くらいのレベルでやらないといけない。
- (原田准教授) リサイクルボックス周辺で3~4%の散乱だったという結果は興味深い。スライド12の正味のPET回収量54.6万トンと可燃・不燃ごみへの混入量3.5万トンを足すと、指定PET販売量と同じ数字になる。散乱ごみがほとんどないと受け取ったが、実際に調査をしてみるともっと多いように感じるが、この数字は正しいのか。
- (全清飲) PETボトルリサイクル推進協議会の数字。街なかに散乱が多いという指摘に対しては、販売量が多いので割合が非常に少なくても多く感じてしまうのかもしれない。消費者への啓発など散乱ごみを減らす努力をしていく。
- (花田教授) ごみへの混入ペットボトルの割合は自治体の組成分析の結果から全国推計していると思うので、少しブレがあるのかもしれない。
- (原田准教授) 可燃・不燃ごみに混入しているペットボトルは、キャップやラベルが外されていない場合がほとんどだと思うので、その分を差し引いて掲載すべき。良い取組みをされていると思うので、あらぬ批判を避けるためにも、数字をそのまま引用するのではなく丁寧に扱ってほしい。

## 2 今後の対策検討の方向性について

○事務局がプラットフォームにおける今後の対策検討の方向性について説明（資料2）

### 【主なやり取り】

- (花田教授) ガイドラインは今年度中に公表するとのことだが、もう完成しているのか。
- (事務局) プラットフォームに参加している人工芝メーカーから個別に意見をいただいたり、分科会でも議論いただきほぼ出来上がっている。
- (花田教授) 今後の方向性について、プラットフォームの成果を万博で発信してはどうか。
- (事務局) 万博はまたとない機会なので、会場内外でどのような発信が出来るか検討していきたい。
- (花田教授) エビデンスに基づいた発信をしてほしい。

(宇山教授) 消毒液ボトルの回収・リサイクルは考え直したほうが良いかもしれない。色々検討したが回収が難しかった。ただ、プラスチックのリサイクルは依然として注目されている。プレコンシューマーのプラスチックリサイクルの引き合いが多いので、やってみても良いかもしれない。エフピコなどできそうなパートナーを探してみてもどうか。

(花田教授) 消毒液ボトルは納入業者に持って帰ってもらうのが一番良いのではないかと考えていた。

(原田准教授) コロナが落ち着いてきてニーズは少なくなっていると思うが、医療系プラスチック廃棄物にアプローチするファーストステップと考えれば、意味のある取組になるのではないかと。また、リサイクルよりもリデュースが優先なので資料の作り方も見直してはどうか。大阪は給水スポットが少ない。タイなど海外は多い。コロナで足踏みした感はあるかもしれないが、ペットボトル使用を少なくしたうえで、出たしまった廃棄物をリサイクルするのが筋。

(事務局) 府ではマイボトルパートナーズの取組みも行っている。本会議でも3Rの優先順位を意識していく。

(プラ工連) ビーズの件。ビーズの製造メーカーも当会の会員だが、国内の製造工場は数えるほどで、工場からはビーズの流出は確認されていない。ビーズクッションの不適正処理が原因と推察している。消費者に訴えるルートがないので、ビーズクッションの製造メーカー・販売事業者にプラットフォームに参加いただかないといけない。

(ごみゼロ) ガイドラインはどこに向けて発信するのか。

(事務局) 府内の人工芝施設に直接周知するとともに、市町村の環境部局を通じて関係する部署に周知いただく予定。

### 3 その他

特になし

### 4 (参考) 会議終了後追加意見

(ごみゼロ) 流出防止対策とともに、そもそも人工芝の使用をできるだけやめてほしい、これ以上人工芝を増やさないでほしいということを市町村や公共施設に対して広報していただきたい。

次回開催 全体会議 令和5年8月頃

<略称>

プラ工連 日本プラスチック工業連盟

三菱ケミ 三菱ケミカル株式会社

環農水研 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所

全清飲 一般社団法人 全国清涼飲料連合会

ごみゼロ 特定非営利活動法人 ごみゼロネット大阪